

🚗 子どもを守る**保育者**のための

チャイルドシートの 大切さがわかる本



子どもを守る保育者のための チャイルドシートの大切さがわかる本

平成19年度 ©不許複製

編集委員 山中龍宏(緑園こどもクリニック院長・産業技術総合研究所
子どもの傷害予防工学カウンスル代表)
服部益治(兵庫医科大学小児科学臨床教授)
藪下正三(JAF本部・交通環境部)
酒井かず子(金目保育園園長)

発行 財団法人母子衛生研究会
〒101-8983 東京都千代田区外神田2-18-7
TEL 03-4334-1160

制作責任者 江井俊秀

発行人 金田一郎

独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業



 
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用し、大豆を原料としたインクで印刷しています。

子どもの事故を予防するのは大人社会の責任です

クルマに乗る時には 必ずチャイルドシートの使用を

1960年以降、子どもの死亡原因のトップは「不慮の事故」です。「事故死」で最も多いのは、1歳未満を除くと交通事故です。交通事故の中でも多いのが「クルマに乗っているとき」。残念なことに、同乗中の事故は、さらに増加しています。

日本では2000年4月から6歳未満の子どもをクルマに乗せるときには、チャイルドシートを使用するように法律で義務づけられました。しかし、実際の使用率は半分以上。「抱っこしているから大丈夫」…では交通事故を防ぐことはできません。

この冊子は、チャイルドシートを使用することの大切さや適切な使い方についてまとめたものです。各地域で親子の一番近いところにいる保育者の皆さんが、社会の子育て支援者として、クルマの事故予防のために、チャイルドシートの大切さについて正確に知っておくことはとても大切なことです。チャイルドシートの使用率が向上することによって、子どもの命は確実に守られるでしょう。

だれもが、「事故は起こらない」「まさか、起きるわけがない」と思っています。しかし、毎日多くの事故が起きているのです。「危ないですよ」「気をつけて」「目を離さないで」…。よく言われることです。しかし、これでは事故を防ぐことはできません。

子どもの命・安全をおびやかしているのは病気ではなく、実は事故です。事故も病気と同じように予防が大切です。大人社会の責任として、交通事故の予防のためにぜひチャイルドシートを使用するよう環境を整えましょう。

子どもはチャイルドシートを使用することを嫌います。保護者や周囲の人は、子どもが「泣く」「わめく」など嫌がる様子を見てチャイルドシートを使わないまま、つい子どもをクルマに乗せています。そのため保護者や周囲の意識が変わらない限り、万が一のときに子どもの命は守れません。子どもにチャイルドシートを使用させるために、お気に入りの玩具を持ってクルマに乗る、などの工夫をしましょう。

保育所は子どもの安全を推進するのに最適な支援場所です。ふだんから園児たちのチャイルドシートの使用状況をぜひチェックしてみましょう。そして保護者と園児に繰り返しチャイルドシートの使用を呼びかけてください。繰り返しの指導こそが、習慣化にとって大切なことです。

チャイルドシートは使用すればいいというものではありません。チャイルドシートの選び方や適切に使用方法、それに、正しい着座をしなければ効果も期待できません。チャイルドシートに関する正しい知識を身につけましょう。

いっぽう、子どもの交通事故予防のためには、事故のデータをきちんと分析することで、チャイルドシートの必要性や車内安全の大切さが理解できます。事故予防に対する社会のそれぞれの分野での行動が今、求められています。

目次

抱っこでは守れない子どもの命	2
チャイルドシートの選び方、正しい取り付け位置や取り付け方が最大の事故予防	6
チャイルドシートは正しく着座して使うことが大切です	10
ひと目でわかる車内の危険をチェック	12
保育園の行事用のクルマとチャイルドシート	14
園だより	16



抱っこでは守れない 子どもの命

なぜチャイルドシートが必要なのでしょう。使用しないで交通事故に遭うとどうなるのでしょうか。そのときの状態を科学的にみてみましょう。

**事故が起きたそのとき、
乗っている人は…**

●**車両衝突のメカニズム**

衝突事故が起きると、今まで走ってきた速度から、瞬時に時速0kmの状態になります。これを車両の衝突（一次衝突）といいます。

そのときクルマの中に乗っている人間は、「慣性の法則」によって、そのままの速度で前に進もうとします。そのため、前方に激しく投げ出され、シートバックやダッシュボードなどに激突したり、ときには車外に放り出されることもあります。これを乗員の衝突（二次衝突）といいます。

●**10kgの子どもが300kgの…**
このように前方に投げ出される力

（慣性力）は、例えば、時速40kmで衝突したときは、体重の30倍以上になります。体重10kgの子どもは300kg以上に力持ちでも「抱っこ」で支えることはできません。

この二次衝突によって、人体の脳や内臓などが破壊され、死亡事故にいたることもあります。交通事故の死者の約8割は、この二次衝突によるものといわれています。

この二次衝突の被害からからだを守るためには、からだを前方に移動しないようにきちんと座席に固定することが必要となります。そのため、子どもにはシートベルトであり、大人にはシートベルト

●**チャイルドシートを使わないと
致死率は約9・8倍にも**

死亡事故の多くは、頭部のけがが多くを占めています。とくに乳幼児は大人と比べて、からだに対して頭の割合が大きく、頭を支える首も細く、骨格も発達途上です。そのため、頭部への損傷が致命傷になる確率が大人の場合より大きいのです。

2006年の交通事故データから、6歳未満の死者を見ると、チャイルドシートの使用、不使用が判明した12113人のうち、使用者は7506人で、うち死者は3人（致死率0・04%）。不使用者は4607人で、うち死者は18人（致死率0・39%）でした。これによるとチャイルドシート不使用の子ども

の致死率は、使用していた子どもの致死率の約9・8倍にもなることがわかりました。

次図表1は、その内容を詳しくあらわしたのですが、このグラフはすべて死者数をあらわしており、ここにあらわれていなくてもチャイルドシートを使用していたことにより、事故の被害に遭わなかった子どもたちも数多くあったことと思われます。

さらに、表2はチャイルドシート使用者率と死亡重傷率の推移をあらわしたグラフです。

これらのデータからも、チャイルドシートの使用が子どもを死亡重傷事故から守っていることがわかります（あとで触れますが、もちろん正しい使い方を、というのが前提です）。チャイルドシートは子どもを守る命綱といえるでしょう。

急ブレーキで
こんなに危険



時速30kmの急ブレーキでとび出す「抱っこ」の子ども（JAFユーザーテストより）

表1 自動車同乗中（6歳未満の幼児）のチャイルドシート使用有無別死亡重傷率（平成18年中）

有無別	平成18年			死者数	死亡重傷率	平成17年
	適正使用	不適正使用	小計			
チャイルドシート使用	適正使用	3	48	6,309	0.81	0.73
	不適正使用	0	30	1,197	2.51	3.33
	小計	3	78	7,506	1.08	1.11
チャイルドシート不使用		18	82	4,607	2.17	2.13
使用不明		0	2	286	0.70	1.04
合計		21	162	12,399	1.48	1.50

注1. 「適正使用」とは、チャイルドシートが車両に固定され、かつ、幼児等がチャイルドシートを適正に使用している場合をいう。
注2. 「不適正使用」とは、事故によりチャイルドシートがシートベルトから完全に分離している場合、幼児等がチャイルドシートから飛び出した場合等をいう。
注3. 死亡重傷率＝（死者数＋重傷者数）（自動車同乗中）÷死者数（自動車同乗中）×100

表2 チャイルドシート使用者率及び死亡重傷率（自動車同乗中）の推移（各年12月末）

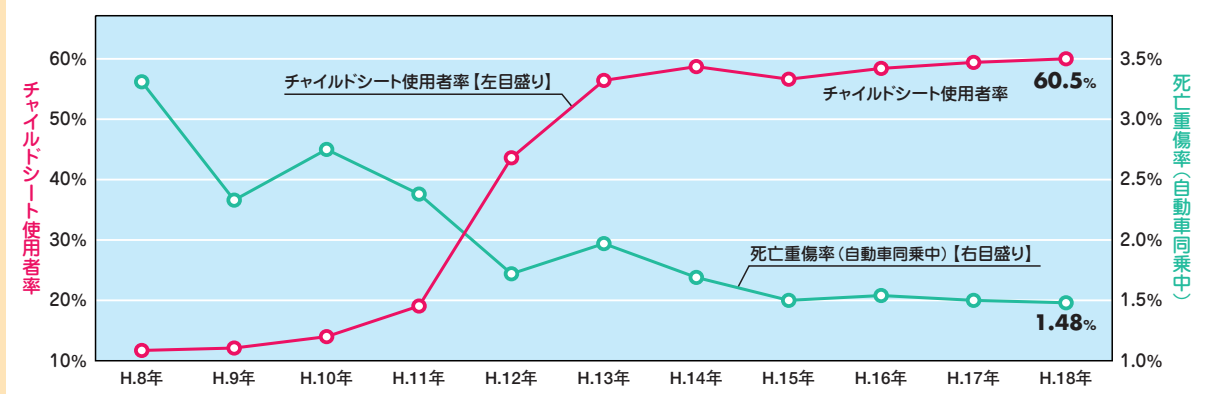
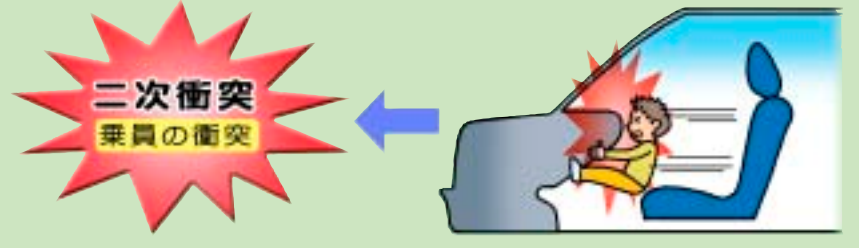
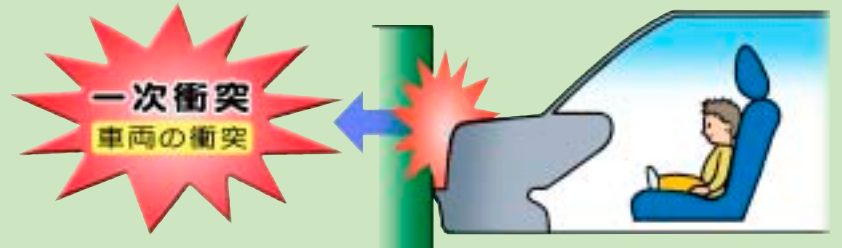


表1・表2とも 出典：警察庁・JAF チャイルドシート使用状況全国調査（2007年）

●**慣性の法則**

静止している物体はいつまでも止まっていた、動いている物体は、止ろうとする力（空気抵抗や摩擦などが働かなければいつまでも同じ速さで動いている、という法則。





チャイルドシートの選び方、正しい取り付け位置や取り付け方が最大の事故予防

チャイルドシートは子どもを交通事故から守るためのもの。その種類とタイプ、選び方や取り付け方など、チャイルドシートについて正しく理解しておくことが大切です。

チャイルドシートの種類とタイプ

3つの種類と2つのタイプ

- チャイルドシートは身長が140cm以上になり大人用のシートベルトがそのまま使えるようになるまでは、子どもを事故から守る大切なものです。子どもの発達に応じて使い分けるよう、3つの種類があります。
- ①乳児用シート……新生児～1歳半くらい。身長はおよそ70～80cm以下。体重10kg未満。
 - ②幼児用シート……1歳～4歳くらい。身長はおよそ88～100cm以下。体重9～18kg。
 - ③学童用シート……4歳～10歳くらい。身長はおよそ135～150cm以下。体重15～36kg。



① 乳児用シート



② 幼児用シート



③ 学童用シート

さらに①+②の「乳児・幼児兼用タイプ」、②+③の「幼児・学童兼用タイプ」などもあります。

日本では兼用タイプを使用している人が多いのですが、それぞれの成長に合わせて3つの専用シートを使い分けることが、子どもにとっての安全性・快適性が高い使用方法といえます。

正しい取り付け位置

●乳児用シートは後部座席、後ろ向き45度に

乳児期の子どもは、骨格が未発達だからだもやわらかいため、ハーネス(子ども用ベルト)による骨格拘束はできません。そのため、赤ちゃんの背中全体で衝撃を受け止める「背面拘束」という方法をとるために、後ろ向き45度に取りつけるのです。後ろ向き45度は、ベッドに寝かせ

た状態に近く、なおかつ安全性も確保できる角度なのです。

また、エアバッグが装備されている助手席に後ろ向きに使用する乳児用シートを取りつけるのは危険です。必ず、後部座席で使用しましょう。

●幼児用シートは後部左側が理想

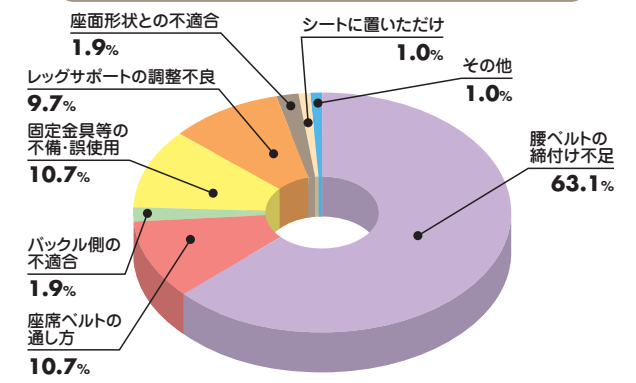
子どもの乗せ降ろしや、子どもが一人で乗り降りできるようにすることを考えて、歩道側にあたる後部左席に取りつけたほうが安心です。

取り付け状況におけるチェック項目

チャイルドシートは、正しい位置にしっかりと取りつけて、初めて効果を発揮します。正しく取り付けられていないと、かえって危険な場合もあります。

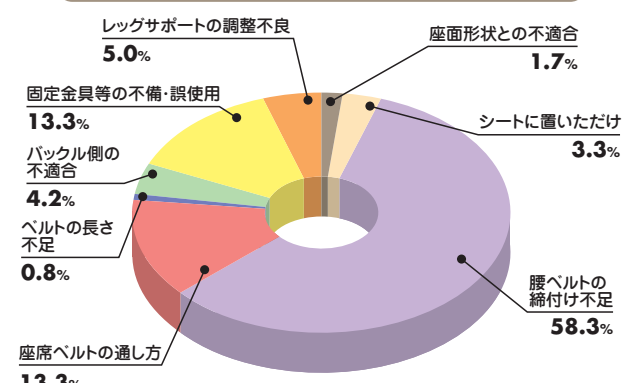
- 腰ベルトがしっかり締められ、緩みがないか。
- シートベルトの通し方に、間違いはないか。
- 固定クリップ、固定金具に誤使用はないか。
- シートの背もたれ角度は、適切か。
- エアバック付きの助手席で使用していないか。

乳児用シートにおける取付け時の主なミスユース



出典:警察庁・JAF チャイルドシート使用状況全国調査(2007年)

幼児用シートにおける取付け時の主なミスユース



出典:警察庁・JAF チャイルドシート使用状況全国調査(2007年)

骨格拘束とは

シートベルトは、4つの骨(鎖骨・肋骨・胸骨・骨盤)に正しく添うように着用することで、事故の衝撃を受けたときでも、座席からからだを安全に固定することができるのです。これを「骨格拘束」といいます。シートベルトは身長140cm以上の体格を目安に設計されています。したがって、その身長に満たない体格の子どもにはチャイルドシートが必要なのです。

選ぶときのポイント

1 取りつけが簡単なもの

一人でも2~3分で、簡単・確実に取り付けられるもの。

2 「ECE規則」などに適合しているもの

5 背もたれ部の高さがあるもの

子どもの成長を考えると、長く使えるもの。

6 サイドサポートの大きいもの

横からの衝突にも十分耐えられ、子どもの頭部が保護できるもの。

3 あまり重くないもの

同じ基準に適合した製品なら、軽いものの方が技術水準が高いといえます。

7 バックルやパット部が大きすぎず、硬すぎないもの

衝突時に子どもの腹部を傷つける危険を避けるために。

4 クッションカバーなどが簡単に着脱できるもの

子どもは汗っかきなので、こまめに洗濯できる衛生的なもの。

8 ハーネスの締めつけ調節のしやすいもの

調節しやすいマニュアルアジャスターのものを。



チャイルドシートの選び方

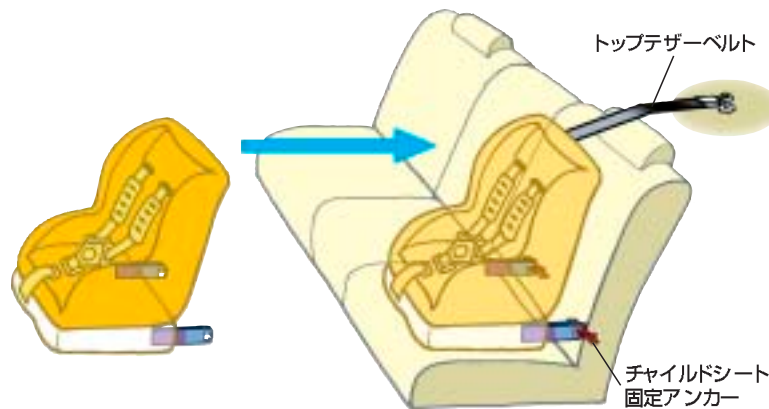
●試していただけることが理想です

チャイルドシートは、カー用品の専門店、デパート、赤ちゃん用品の大型店などで購入できます。ネットショップでも扱っていますが、大切なのは試していただけること。

また、クルマのシートベルトの長さが足りない(約?4m以上は必要)、正しく取り付けられないこともあるので、実際に取りつけるクルマで店に行き、試しつけをしてみる必要があります。子どもを座らせ、ハーネス(子ども用ベルト)を締めるところまで試してみるのがベストです。

ISOFIX

クルマの後部座席にチャイルドシート固定アンカー(金具)が装着されていて、チャイルドシートの金具をはめ込んで取り付けます。さらに、グラつきを抑えるため、シート上部をトップテザーベルトで固定します。



リサイクル、リユースの注意点

●使用歴がわかるものを

リサイクル品の場合は、どこで使ったか、必ず使用歴がわかるものを。外見はきれいでも、事故にあったものは危険です。ゆずり受ける場合は、取り扱い説明書があり、付属品がそろっていること、ハーネスにねじれやよじれがなく、リクライニングやバックルが確実に操作でき、シートカバーやクッション類が衛生的か、などを確認することが大切です。



チャイルドシートに関する相談や情報

- チャイルドシートに関する相談や情報
- ・内閣府(シートベルト・チャイルドシート着用推進会議)
http://www.cross-road.gr.jp/dsp_category.php?comer_id=7&category_id=3
- ・国土交通省(チャイルドシート・コーナー)
<http://www.mlit.go.jp/jdosha/child/index.htm>
- ・JAF(チャイルドシート・ガイド)
<http://www.jaf.or.jp/safety/index.htm>

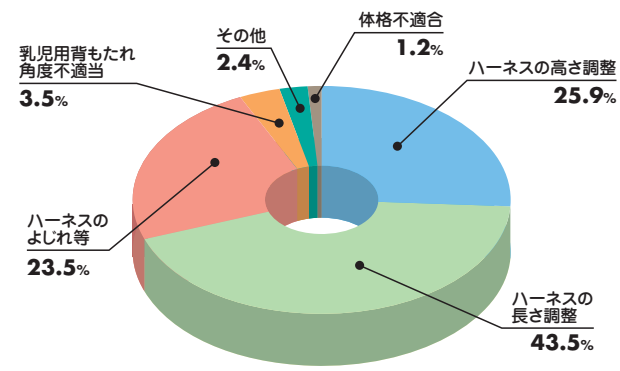
安全基準「ECE規則」

2006年10月、国内基準が見直され、「ECE規則」がスタートしました。現在は、国内基準と「ECE規則」のものが混在していますが、2012年7月以降から販売されるチャイルドシートは、日本でも「ECE規則」のものに統一されます。

「ECE規則」とは

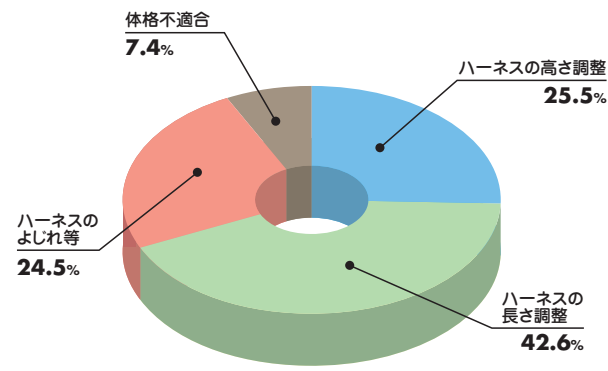
1958年より、「車両・装置等の型式相互承認協定」が自動車の構造及び装置の安全・環境に関する統一基準の制定と相互承認を図るために国連欧州委員会(UN/ECE)の多国間協定として締結されました。日本も1998年よりこの協定に参加して、自動車基準の作成と認証の相互承認の実現を目指しています。その活動の一環として、2006年10月にチャイルドシートの基準も「ECE規則」が導入されるようになりました。

乳児用シートにおける着座時の主なミスユース



出典:警察庁・JAF チャイルドシート使用状況全国調査(2007年)

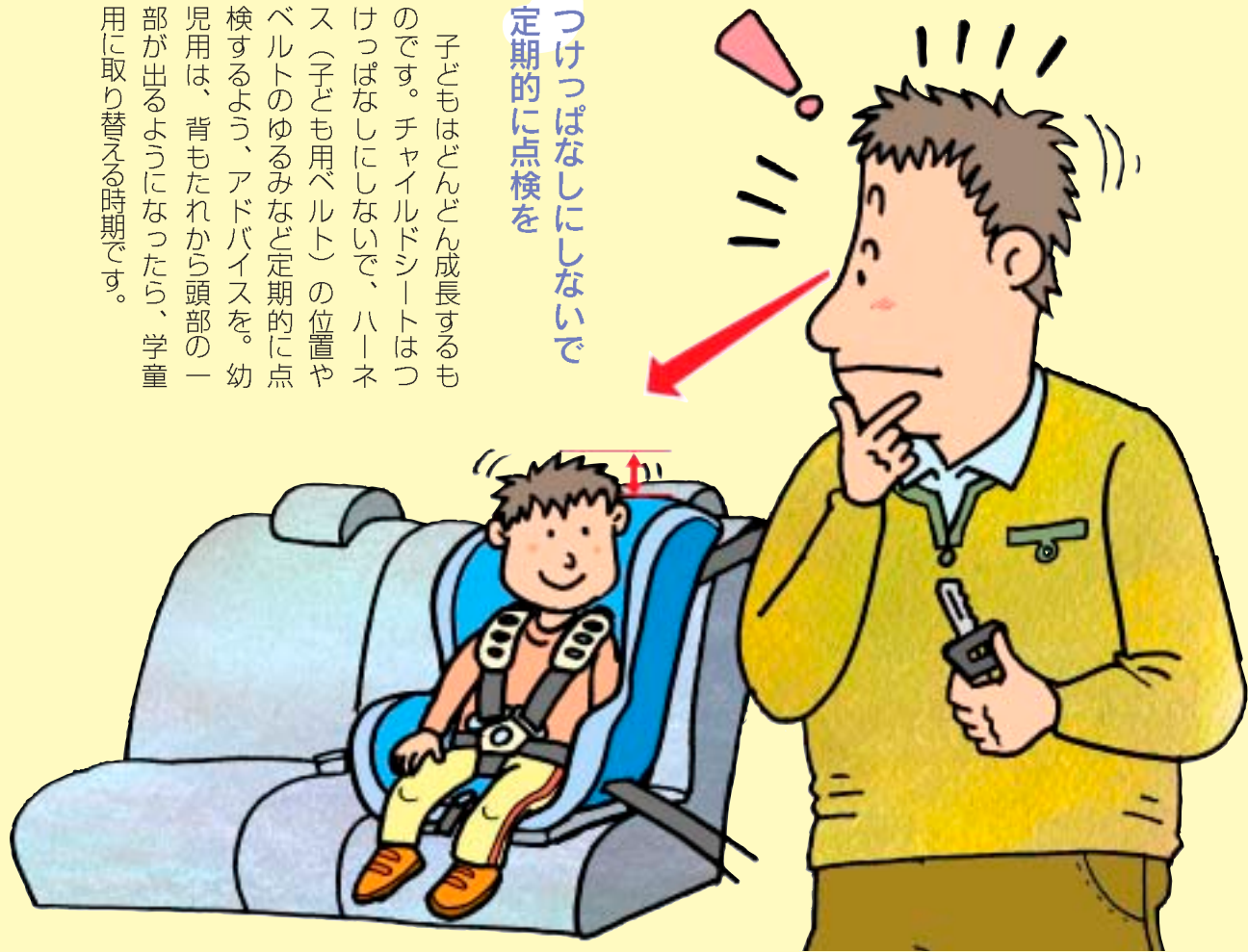
幼児用シートにおける着座時の主なミスユース



出典:警察庁・JAF チャイルドシート使用状況全国調査(2007年)

つけっぱなしにしないで
定期的に点検を

子どもはどんどん成長するものです。チャイルドシートはつけっぱなしにしないで、ハネス(子ども用ベルト)の位置やベルトのゆるみなど定期的に点検するよう、アドバイスを。幼児用は、背もたれから頭部の一部が出るようになったら、学童用に取り替える時期です。



講習会への参加を呼びかける

各自治体やJAFなどではチャイルドシートに関する講習会も開かれています。地域で講習会が行われるなどの情報があれば、保護者へ参加をすすめましょう。また保育者自身が参加して、知識を得て、保護者へ教えるのもいいでしょう。



正しい着座の
チェックポイント

正しく着座しているかどうかを確認するチェックポイントです。

1 子どもの体格に合ったものを使用しているか。



2 肩ハネスの高さ調節は、適切か。



3 ハネスの締め付け具合は、適切か。



4 ハネスにねじれやよじれはないか。



5 シートの背もたれ角度は、適切か。



6 肩ベルトや腰ベルトの通し方は適切か(学童用)。



チャイルドシートは正しく選び、しっかりと取りつけただけでは不十分。正しく着座しているかも事故防止のための大切なチェックポイントです。

チャイルドシートは正しく
着座して使うことが大切です



ひと目でわかる 車内の危険をチェック

近所への買い物、旅行など、クルマは家族みんなの楽しい乗り物です。しかし、一歩間違えると、交通事故以外にも危険な乗り物になってしまいます。

チャイルドシートで安全を確保することはもちろんですが、車内での事故にも気をつけましょう。

シガーライター
いたずらしてヤケドした。

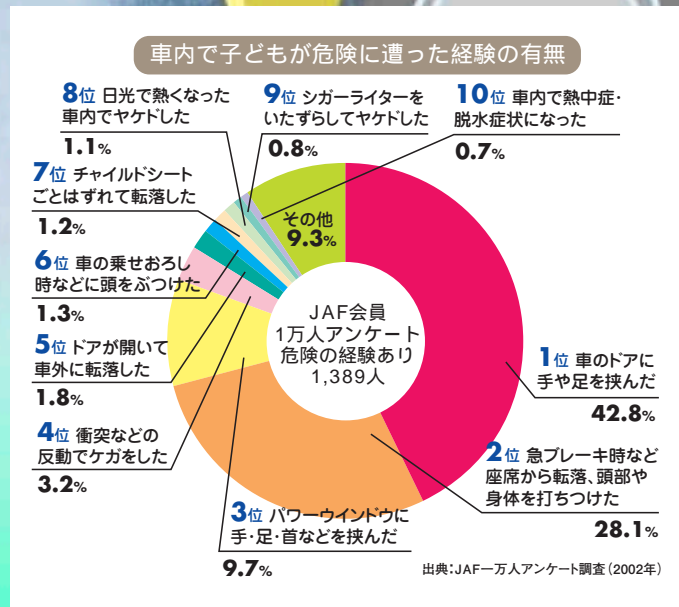
**ドアや
パワーウィンドウ**
手や足をはさまれた。

チャイルドシート
シートごとはずれて
転落した。

座席
転落して身体を打ちつけた。

**正しいチャイルドシートの
取り付け位置**

- チャイルドシートの安全な取り付けに最適な位置
- チャイルドシートの取り付けに適した位置
- △ チャイルドシートの取り付けにあまり適さない位置



後席のシートベルト着用が義務化に！

2008年春には、後席シートベルト着用が義務化されます。後席でシートベルトをしないと、前方に投げ出されたり、あるいは窓ガラスを突き破って車外に放り出され、自らが危険であるだけでなく、同乗者に衝突し、致命傷を負わせる可能性もあるのです。

子どもを車内に放置しない

車内に子どもを放置し、熱中症のために死亡する事故が、毎年のように起きています。気をつけたいのは、外気温がそれほど高くない春先から初夏にかけての時期です。車内温度は真夏の炎天下ではだれしもが気をつけるのですが、春先や初夏の日差しでは油断してしまうのでし

う。締め切られた車内では、空気の流れもないので、温室と同じ。子どもは体温調節機能が未熟なため、死亡することがあります。また、防犯上からも、エアコンをかけたまま子どもを車内に放置することはやめましょう。

確認！
〇歳〇〇組の園児3名、
わんぱく公園まで
行きます

はい、気を付けて！

保育園の行事用のクルマと チャイルドシート

保育園での送迎やお出かけする際に使うミニバンなどの一般車両を使用している場合には、チャイルドシートを取り付けることができるので、チャイルドシートの使用義務は免除されません。

しかし、幼稚園などの送迎バスのうち、座席が幼児専用につくられているものについては、チャイルドシートを取り付けることができないので、使用が免除されることもあります（法令第26条の3の2）。



チャイルドシートに関する法律

道路交通法第71条の3第4項
チャイルドシートの使用義務

自動車の運転者は、幼児用補助装置を（幼児を乗車させる際座席ベルトに代わる機能を果たさせるため座席に固定して用いる補助装置であって、道路運送車両法第三章及びこれに基づく命令の規定に適合し、かつ、幼児の発育の程度に応じた形状を有するものをいう。以下この項において同じ。）を使用しない幼児を乗車させて自動車を運転してはならない。ただし、疾病のため幼児用補助装置を使用させることが療養上適当でない幼児を乗車させるとき、その他政令で定めるやむを得ない理由があるときは、この限りでない。

「やむを得ない理由」とは、道路交通法施行令の一部を改正する政令（平成11年政令第229号）において規定された（同令第26条の3の2第4項各号）。
法令第26条の3の21号 その構造上幼児用補助装置を固定して用いることができない座席において幼児を乗車させるとき（当該座席以外の座席において当該幼児に幼児用補助装置を使用させることができる場合を除く。）



クルマで送迎されている保護者の皆さまへ



使用していますか？ チャイルドシート

年 月 日発行
保育園

警察庁の調査によると、チャイルドシートを使用していない場合の致死(死亡にいたる)率は、使用の場合の**9.8**倍と高くなります！

春の交通安全運動週間

5月 日() ~ 日() まで

ゴールデンウィークが終わり、落ち着いて園生活を送れる時期になりました。来週の5月 日から 日まで春の交通安全運動週間です。今回は春の交通安全運動週間にちなんでクルマで送迎されている保護者の皆さまへチャイルドシートの使用についてお知らせします。

しっかり着けよう！
チャイルドシート



普段から使用されている保護者の方

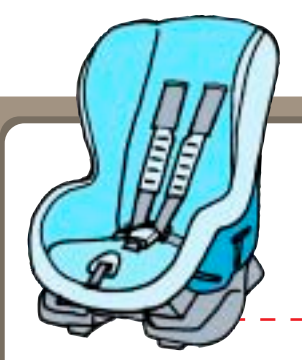
チャイルドシートが正しく取り付けられているかどうかをご確認ください。正しく取り付けないと、せっかくのチャイルドシート使用の効果は薄れてしまいます。

送迎される方が送り迎えで違う保護者の方

送迎も迎えも必ずチャイルドシートを取り付けてください。すぐ近くだからと思われるかもしれませんが、お子さんの命には代えられません。チャイルドシートをお持ちでない方はレンタルという方法もあります。

チャイルドシートは定期的に点検を！

からだに合わないチャイルドシートは、効果が期待できません。肩ハーネスの位置やゆるみなど日常的に点検しましょう。幼児用は、頭部の一部が背もたれから出るようになったら、学童用に取り替える時期です。



正しい使い方をしていますか？

チャイルドシートを正しく使用しているかどうかをチェックしてみましょう。

- 子どもの体格に合ったものを使用していますか。
- 肩ハーネスの高さ調節は適切ですか。
- ハーネスの締めつけ具合は適切ですか。



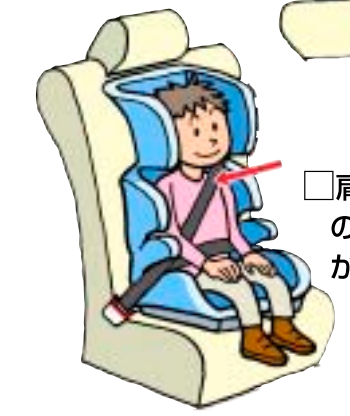
- ハーネスにねじれやよじれはありませんか。



- シートの背もたれ角度は適切ですか。



140cm以下の子どもに大人のシートベルトを使うのは危険です。



- 肩ベルトや腰ベルトの通し方は適切ですか(学童用)。

チャイルドシートに関する相談や情報

- 内閣府** (シートベルト・チャイルドシート着用推進会議)
http://www.cross-road.gr.jp/dsp_category.php?corner_id=7&category_id=3
- 国土交通省** (チャイルドシート・コーナー)
<http://www.mlit.go.jp/jidosha/child/index.htm>
- JAF** (チャイルドシート・ガイド)
<http://www.jaf.or.jp/safety/index.htm>

★おねがい

交通安全週間に保護者会でも役員が駐車場に立ち、送迎時の交通指導を行います。保護者一人ひとりがお子さまの安全を確保できるよう、手間を惜しまずチャイルドシートを装着してあげてください。

